

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

奥州市長 倉成 淳

市町村名 (市町村コード)	岩手県奥州市 03215
地域名 (農林業センサスにおける地域内農業集落名)	衣川 北股地区 (大平、有浦、西窪、天田、桑畑、外の沢、国見)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年12月5日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

- ・中山間地域であり、基盤整備が未整備で、小区画の圃場が多い。(有浦、外の沢、天田、大平、西窪)
- ・中山間地域で、小規模ながらも圃場整備が完了している。(桑畑)
- ・砂地で水持ちが悪いなど、条件不利地域であり、転作圃場も自己保全になりつつある。(西窪)
- ・石が多い、堰の水路補修など、整備が必要な箇所がある。(有浦、天田)
- ・水源が無いため、水不足も起こりやすい。(外の沢)
- ・イノシシやクマの被害が大きく、困っている。(有浦、天田、桑畑、大平、西窪)
- ・担い手が不足している。(天田)
- ・農業者の高齢化により、将来に向けて農業経営の維持が困難な地域である。(桑畑)
- ・地区外からの学生などのボランティアの誘致に積極的に取り組んでいるが、農業の担い手は不足している。(大平)
- ・未整備のため、土水路の泥揚げ作業など農家や住民への負担も大きい。(西窪)

【地域の基礎的データ】

- ・法人: 1法人、個人担い手: 6経営体
- ・主な生産品目…水稻、大豆、リンドウ、牧草、アスパラ、ピーマン、ブロッコリー、デントコーン など

(2) 地域における農業の将来の在り方

【有浦】

- ・農用地としては条件不利な圃場が多いことに加えて、近年は有害鳥獣被害も増えている。農用地を将来にわたり維持していくためには基盤整備を行い、区画を広げ、より効率的な農業を実現する必要がある。
- ・後継者は地区外にいる農家も多いため、農地の集約や集積を進める。
- ・ホタルやアオガエルなども生息する里山の多様な自然環境があり、この強みを活かした天日米などのブランド化や、農泊等関係人口づくり独自の農業、農村振興に取り組んでいく。

【外の沢】

- ・10年後も農用地を維持するために基盤整備を行い、水利環境を確保する。それにより、コメや牧草だけでなく、大豆やソバ、ピーマン、リンドウなど多様な品目を組み合わせた多角的な儲かる農業を実現する。
- ・農地の集約と集積を進め、担い手の法人化にも取り組み、安定的な農業経営を目指す。

【天田】

- ・近年は農作業委託を進めており、今後も担い手を確保するためにも、農地の集約と集積を進め、法人化の実現を目指す。

【桑畑】

- ・水稻を中心とした複合経営の作付に取り組む地区で肉牛、アスパラ、麦、ハトムギなどの作物の生産で耕作地の維持管理を行っていく。

【太平】

- ・農用地としては条件不利な圃場が多いことに加えて、近年は有害鳥獣被害も増えているため、有害鳥獣対策を行う一方で、ドライフラワー用の花卉の作付けなど新しい作物にも取り組んでいき、農用地の保全と共に農村の活性化に取り組む。

【西窪】

- ・水稻だけでなく、中山間地の特性を生かしてヤマブドウや大麦など新しい作物にも取り組み、多角的な農業生産を実現する。
- ・地域外からも積極的に人材を呼び込み、収穫から体験できる産直の運営や収穫体験圃場など新たな心に身もチャレンジし、関係人口から移住促進にもつなげる。
- ・担い手への集約と集積を進め、持続可能な経営形態の実現を目指す。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	309.0 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	309.0 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

- ・中山間地域等直接支払の対象農用地を含む農振農用地内農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とし、耕作が難しい区域は保全・管理を行う区域とする。

注：区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
・離農、規模縮小が生じた場合には、近隣の農業者を中心に集積、集約を図り、農作業委託で農地をできる限り耕作する。(有浦、外の沢、天田、大平、西窪) ・農地中間管理機構を通し、農地の効率的な経営を見出し農地の集積を図る。(桑畑)
(2)農地中間管理機構の活用方針
・原則、地域計画区域内の農地の貸借契約は、農地中間管理機構を介して権利設定し、所有者の貸付意向と担い手の経営意向を調整することで、担い手への面的集積を促進する。(有浦、大平、桑畑) ・基盤整備を進めた上で、地域計画区域内の農地の貸借契約は、農地中間管理機構を介して権利設定し、所有者の貸付意向と担い手の経営意向を調整することで、担い手への面的集積を促進する。(外の沢、西窪)
(3)基盤整備事業への取組方針
・将来にわたり農用地の活用と保全を進めるために、水利環境の整備と圃場の拡大が必要である。(有浦、外の沢)
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
・新規就農者など地域内外から多様な経営体を確保するため、基盤整備の検討や、収益が確保できる新しい作物を積極的に導入しながら、多様な担い手確保に取り組んでいく。(有浦、大平) ・営農組織の法人化にも将来的に検討を進める。(有浦、) ・農地の集約、集積を進めた上で、担い手の法人化等安定的な経営体制により、将来にわたり担い手を確保する。(外の沢、天田、西窪) ・関係人口や移住促進等新たな人材も積極的に受け入れていく。(天田、西窪)
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☐ ④輸出	☒ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☒ ⑨その他	

【選択した上記の取組方針】

- ①電気柵の整備。(有浦、桑畑) 電気柵実施済みであり、維持管理を進める。(外の沢)
電気柵やワナ設置等有害鳥獣対策に取り組む。(大平)
有刺鉄線や括りワナなど有害鳥獣対策に今後も取り組み、維持管理を進める。担い手が不足しており、人材育成も必要である。(天田、西窪)
- ②特別栽培米の作付取組を行い効率的な経営を進めていく。(桑畑)
- ③パイプラインの更新に当たり、効率的な維持管理ができる設備を導入する。(有浦)
一部担い手がドローン防除に取り組んでいる。(外の沢)
現在は地区外にドローン防除などを委託しているが、いずれは取り組む必要を感じている。(天田)
ドローン防除やリモコン草刈り機、ヘリ防除などを導入し、農作業の効率化を図る。(大平、西窪)
- ⑤現在のうるしを活用するほか、カエデを植えてメープルシロップをとるなど新しい取り組みを検討する。(有浦)
ヤマブドウなど地域の特性に合った果樹等の生産に取り組む。(西窪)
- ⑦多面的機能保全活動組織の積極的な活動により、土地所有者と担い手が共同で農用地、水路、畦畔、農道等の定期的な点検や維持保全作業等を行い、保全管理に取り組む。(有浦、外の沢、天田、大平、西窪)
上記のほか、現在あるビオトープを整備し、来訪者の受け入れ態勢の整備にも取り組む。(有浦、大平)
今後も中山間制度に仕組み農地、農道、水路の保全を進めていく。(桑畑)
- ⑨放牧地については、植林等により森林への誘導を図る。(大平)